

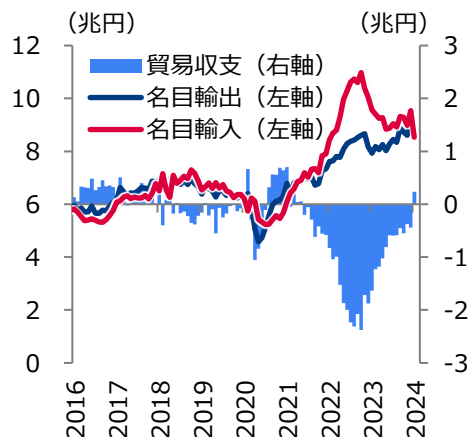
日本

貿易統計 (2024年1月)

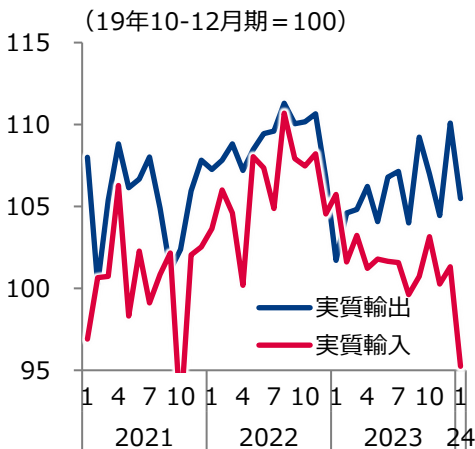
## 2年8か月ぶりの貿易黒字転換も、特殊要因の影響大

政策・経済センター  
北川諒  
03-6858-2717

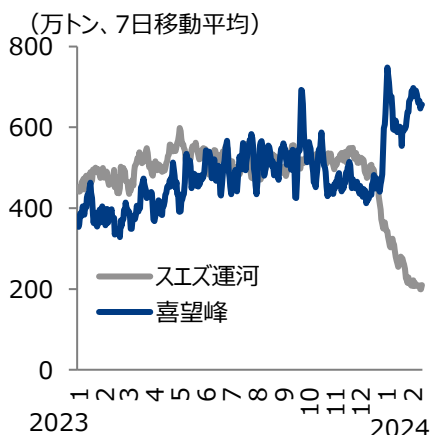
## 1 名目輸出入・貿易収支

注：季節調整値。  
出所：財務省「貿易統計」より三菱総合研究所作成

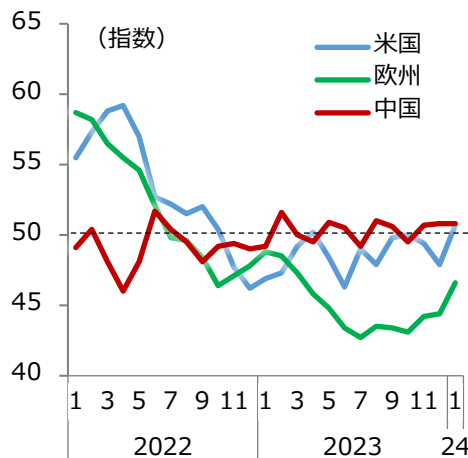
## 2 実質輸出入

注：当社による実質・季節調整値。  
出所：財務省「貿易統計」、日本銀行「企業物価指数」より三菱総合研究所作成

## 3 ルート別貿易量

注：日次データ。直近は2月13日  
出所：IMF PortWatchより三菱総合研究所作成

## 4 米欧中の製造業PMI

注：S&P グローバルPMI。欧州はEU加盟国。  
出所：Bloombergより三菱総合研究所作成

## 評価ポイント

## 今回の結果

- 24年1月の貿易収支（季調値）は、2,353億円と2年8か月ぶりの黒字となった（図表1）。名目輸入の減少幅（前月比▲10.5%）が名目輸出の減少幅（同▲3.6%）を上回ったことが影響した。
- 輸入は、価格・為替変動の影響を除いた実質ベース（当社試算、季調値）でも前月比▲6.0%と大幅に減少した（図表2）。地域別では、対EU（同▲12.7%）の落ち込みが大きく、幅広い品目が減少した。紅海での商船攻撃を受けてスエズ運河経由の海上輸送が回避されており（図表3）、輸送期間の長期化の影響が発現しているとみられる。
- 実質輸出は、前月比▲4.2%と2か月ぶりに減少した（図表2）。財別では、自動車など輸送用機器の減少（同▲17.9%）が大きく、自動車メーカーの認証試験不正問題や能登半島地震による生産活動の停滞が影響している可能性がある。

## 基調判断と今後の流れ

- 貿易収支は、名目輸入の下振れにより黒字転換したが、特殊要因の影響が大きく、黒字の定着には至らないだろう。
- 実質輸出の先行きは、米欧の既往の金融引き締めによる景気抑制効果の顕在化を背景に増勢は鈍化するものの、米国経済の軟着陸や半導体の在庫調整の一巡に伴い堅調に推移すると見込む。製造業の景況感はグローバルに持ち直しの兆しがある。米国の製造業PMIは本年1月に9か月ぶりに50を超え、EUは昨年7月を底に上昇に転じ、中国も同11月以降50を超え底堅く推移している（図表4）。各国の生産活動の回復を通じた輸出の改善が期待される。
- ただし、世界経済のリスクバランスは依然として下向きに傾いており、世界貿易の停滞の影響を受ける可能性がある。当面の下振れリスクとしては、紅海問題をはじめとする地政学的緊張の高まりによるサプライチェーンの逼迫が挙げられる。